

日本の女性に育まれた意匠美を今、パリへ
「Kimono, au bonheur des dames 展」開催
「松坂屋コレクション」を海外で初公開

一般財団法人 J.フロント リテイリング史料館(以下、J.フロント史料館)は、独立行政法人国際交流基金とフランス国立ギメ東洋美術館(以下、ギメ美術館)との共催で、2月22日(水)~5月22日(月)フランス・パリのギメ美術館において、「Kimono, au bonheur des dames 展」(着物・オ・ボヌール・デ・ダム展)を開催することとなりましたのでお知らせいたします。

今から約400年前の1611年(慶長16年)、織田信長に仕えた伊藤蘭丸祐道が、名古屋で店を構えて呉服小間物問屋の暖簾を掲げたのが松坂屋(当時は伊藤屋)の始まりでした。時代は変わり1910年(明治43年)、松坂屋は呉服商から百貨店へと業態を転換しましたが、それ以前から意匠部の新設、着物図案の公募など、デザインの改良策を積極的に推し進めていました。そして1931年(昭和6年)に、「時代衣装を収集し、染織意匠の向上と優秀呉服の制作に資する」ことを目的に、京都仕入店内に染織参考室を設置し、1939年(昭和14年)までに、染織工芸家・骨董専門店・個人の収集家などから購入したのが、今に伝わる小袖、能装束、振袖、帷子、陣羽織などの時代衣装であり、古今東西の裂地です。あわせて雛形本、能面、屏風、鎧・兜などの収集も行いました。それから半世紀を経た2010年(平成22年)、松坂屋の伝統と文化の継承を目的にJ.フロント史料館を設立し、貴重な収蔵品の大部分は「松坂屋コレクション」として、創業の地・名古屋のJ.フロント史料館及び名古屋市博物館に引き継がれました。

この度の展示では、J.フロント史料館と名古屋市博物館が所蔵する5000点を超える松坂屋コレクションから選りすぐりの120点を展示します。これまで、所蔵史料の一部を海外美術館等に出展したことはありましたが、**これだけの規模で海外公開するのは、今回が初めて**です。会場の内容は、導入部で松坂屋上野店が描かれた浮世絵などを通じ松坂屋の歴史に触れ、第2部、第3部で時代や武家や町人などの階級によって異なっていた着物文化と江戸から明治にかけての着物の変遷を紹介します。



「安永元年上野店外郭図」 円志(安永元年・1772年)



白縮緬地花車雲模様小袖
(19世紀前半)



白麻地梅樹格子菊菫模様帷子
(18世紀前半)



縹麻地椿桜蝙蝠模様帷子
(18世紀後半~19世紀前半)



菊花散らし蒔絵櫛
(18世紀後半~19世紀前半)

そして、会場の終盤では、コシノジュンコ、高田賢三、川久保玲、ジョン・ガリアーノ、ジャンポール・ゴルチェ、イヴ・サンローランなど着物に影響を受けた現代モードのデザイナーの作品を展示します。フランスのお客様は、自分たちがよく知る現代モードの巨匠たちが日本の着物の影響を受けたことを知ることで、一層着物に興味を持つことでしょう。

会場全体のアーティストリックアドバイザーとして、コシノジュンコ氏を迎え日本の伝統とフランスモードのマリアージュを演出します。



アーティストリックアドバイザー：コシノジュンコ氏



「コシノジュンコ氏 展示作品」

タイトル	Kimono, au bonheur des dames (着物・オ・ボヌール・デ・ダム展)
場所	フランス国立ギメ東洋美術館 6, place d' Iena 75116 Paris France
会期	2017年2月22日(水)～5月22日(月)
主催	国際交流基金・J. フロントリテイリング史料館・ギメ東洋美術館
プレス内覧会	2月21日(火) 12:30～ ギメ東洋美術館にて
後援	在フランス日本大使館
特別協力	名古屋市博物館
協賛	竹中工務店・資生堂・日本航空・間・大丸松坂屋百貨店

フランス国立ギメ東洋美術館 (Musée national des Arts asiatiques-Guimet)

実業家エミール・ギメによってリヨンに創設され、東洋学、特に宗教研究に関心を寄せたギメ自らがアジア各地を訪れ収集した遺物や美術品などの名品が展示されました。1945年には、ルーヴル美術館の東洋部のコレクション全体がギメ美術館に移され、アジア以外で最大の東洋美術コレクションを誇っています。

公式サイト： www.guimet.fr
 住所： 6, place d' Iéna 75116 Paris France
 休館日： 火曜日 / 開館時間： 10:00～18:00



お問い合わせ先

J.フロント リテイリング(株) 広報担当 五味・杉谷 TEL03-6895-0816 FAX03-6674-7565